

Q. 古民家(空き家)を再生し、観光・新規起業家のオフィスとして活用してはどうか

A. 来年度、古民家再生に向けた調査委託事業を計画している



ここを聞きました

- 空き家の活用と観光振興について
- 再生可能エネルギー活用事業について

古民家の再生と再生後の活用について

森田 「アクションプラン」の中で検討されている古民家再生事業についてどのような計画を持っているのか。

産業経済部長 吹屋地区においては、4割を超える空き家率となっている。空き家をなんとかしないと観光は成り立たない。このことは地域住民の共通認識となっており、先進地である徳島県祖谷地域の視察も実施されたと聞いている。

今後、吹屋地域の皆さんの取り組みを応援していきたい。市として来年度予算の中で古民家再生に向けた調査委託を計上しており専門家による調査を実施していきたい。

森田 空き家を活用し、地域活性化を図る取り組みの中で、「住みたまち高梁・創造ネットワーク」を立ち上げているが、どのような支援を行っているのか。

ここを聞きました

- 空き家の活用と観光振興について
- 再生可能エネルギー活用事業について

森田 仲一

産業経済部長 空き家・空き店舗に係る情報を発信し、トータルでの移住相談を行っている。起業支援の成果として昨年は栄町・成羽町で出店された成果がある。

再生可能エネルギー活用について

森田 木質バイオ・竹材を活用した事業について、市がもっと関わらざるべきと考えるがどうか。

市長 昨年来実証実験を行ってきた。里山の維持とあわせ地域の住環境を守る事業と認識しており、ハード面(作業機械)については補助事業の活用もあわせ行政で実施すべきと考えている。

Q. 複合施設(図書館) 建設計画、馬券発売所の誘致は市民に胸を張って言える政策か

A. 市民に暮らしてよかったと言ってもらえるまちづくりが大事と考えている



ここを聞きました

- 市長の政治姿勢について
- 旧「ゆ・ら・ら」の売却と馬券発売所の誘致について

妹尾 直言

妹尾 新庁舎では20億円が28億円、駅の橋上化等には13億円、複合施設(図書館)に18億円と高梁駅周辺に60億円もの巨額のお金が使われている。一方、行財政改革として地域コミュニティの元手(原資)となつている公民館の活動補助金などをカットしている。このようなアンバランスな市政運営は大いに問題がある。複合施設(図書館)だけを取り上げても、当初は13億円だったものがいつの間にか15億円になり、平成27年度予算では19億円に膨れあがっている。

しかも、何の説明も議論もなく予算だけがジャブジャブ膨れあがっている。

市長は議会での意見、または市民からの意見に対して「貴重な意見、いただいた意見は真摯に受け

止め今後の施策に生かしていきたいです」と言われるが、自分の思うがままに事業をドンドン進めている。こうした市長の政治姿勢には問題がある。

市長 庁舎、駅については理解をいただいている。その付託を受け進めている。

妹尾 旧「ゆ・ら・ら」の売却に伴う場外馬券発売所の誘致は「歴史・伝統・文化を重んじ」また「学園文化都市たかはし」などを掲げて教育、政策を進めてきたことと真逆な政策ではないのか。また、反社会的な勢力が入り込むような事になりはしないか。

政策監 誘致ではなく公募によって応募されたもので、反社会的なものではなく国が認めた公営ギャンブルである。

Q. 市内でお産が出来るようにならないか

A. 市外でも安心して産めるよう、さまざまな施策を行っていきたい



ここを聞きました

- 人口減少問題への対応について
- 学校配置について
- 市道改良について

宮田 市内で子供が産めるようにならないかという声が多くある。定住人口の確保という観点からも重要と思うが、市はどのような対応をしてきたのか。

市長 市内でお産ができる環境づくりに努力している。しかし産科医師だけでなく、助産師や看護師なども確保しなければならず、大変難しいところがある。そこで妊婦さんの意見を聞きながら、ママ・サポート119をスタートさせ不安解消に努めている。また妊産婦医療費の無料化も実施し、子供を産む環境の充実をトータルで図っている。

※ママ・サポート119とは、妊婦さんの希望により、出産予定日や母体の状況等の情報を事前に登録し、緊急を要する場合に119番通報すれば、かかりつけ医療機関への連絡が短縮されスムーズな搬送が可能となるものです。(もしもの時に備え「ママ・サポート119」に登録してください。)

ママサポート119 不妊・不育治療助成
妊産婦医療無料 産後ヘルパー派遣

子供医療費無料 第3子50万円
4子以上100万円

高校生バス通学半額助成 市内私立学校入学金を全額(又は半額)助成

新婚世帯には家賃助成もあります

Q. 産科の設置と夜間小児救急医療の充実で子育ての支援を!

A. 産科の設置は大変厳しい状況にある。小児救急体制充実は努力している



ここを聞きました

- 若者定住に欠かせない子育て支援について
- 学校統廃合と過疎問題について
- 基幹産業としての農業の振興について
- TPP交渉からの撤退について
- 市道、主要農林道の維持管理について

難波 英夫

若者定住に子育て支援を

難波 若い定住希望者は市内で妊娠、出産、育児までの相談ができ、分娩もできる病院・産科を求めている。また、夜間の小児救急病院も同様である。この声に応えよ。

健康福祉部長 陣痛時の心配が多く消防本部と協議して「ママサポート・119」を行っており49件の登録がある。産科の設置は大変厳しい状況である。小児救急医療体制は4つの病院で連携してもらっているが時間外は難しい。市が作成している「小児救急ガイドブック」「ホームページ」を活用してほしい。

難波 成羽病院を生かす取り組みはできないか。

産業経済部長 地域での作業に感謝する。報償費は現状で、コミュニティの観点から検討できれば考える。

市道・主要農林道の維持管理について

難波 高齢化、過疎化の中で、市民のボランティア活動も厳しい状況となっている。市道の草刈りなど奉仕作業に苦慮されている町内会がふえているが対策をどう考えるのか。また、報償費の引き上げを求める。